

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月30日
- 事業名 : 『捨てるから創るへ』医療機器リサイクルプラットフォームの事業化
- 資金分配団体 : 九州地域ソーシャルビジネス・コンソーシアム（公益財団法人九州経済調査協会、一般社団法人ユヌス・ジャパン）
- 実行団体 : 株式会社 ホンジョー（2022年8月に本城商店株式会社から社名変更手続き中）

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
処理システムの導入	対象顧客と採用実績数	目標値⇒36施設	・2024年3月末時点で36施設の採用を目指す	・2022年9月末時点での採用無し	<b>3. 計画より遅れている。</b> ⇒対象地域を佐賀県から北九州に変更して、取掛り重視の為に製品限定(医療用ベッド)し提案中。コロナ禍：7波の影響で本年10月からの開始となる。
システム開発	システムの開発要件の達成	処理後の提出書類の紙運用のデジタル化と運用上の業務手順の共有化	2023年3月までに	・クラウド環境下のDB基礎部分と紙運用のデジタル登録機能は完成 ・限定した(医療用ベッド)製品における手順標準化の検討中	<b>2. 計画どおり進んでいる。</b> ・過去施設提案実績に基づく、提出書類のデジタル運用の実現にはメドがついて、登録機能としてシステム上で確認済み。 ・パラマウント社の医療用ベッドにおいて、製造メーカー側の処理管理形態をシステムに取り込み指標化する実証展開を10月より開始予定。

残存価値	医療施設からの資産の査定評価依頼の回数	目標値：20施設 査定数：100回	2024年3月までの20施設、100回以上の査定を目指す (継続査定に繋がる提案数も考慮する)	実績病院数：27施設 査定数：40回	2. 計画どおり進んでいる。 ⇒査定が単発であり、継続性があまり見込めない状況、ベッドの査定はメーカー側紹介により継続性あり。
バリューチェーン関係企業の参加	協議会及びプロジェクト参加企業数	バリューチェーン上の各業務関係者で、各々5社を予定	2024年3月までに ・製造メーカー：20社 ・医療機販社：20社 ・中古販社：10社 ・産廃物関係：40社	2022年9月末までに ・製造メーカー：3社 ・医療機販社：5社 ・中古販社：3社 ・産廃物関係：15社	2. 計画どおり進んでいる。 ⇒昨年同様にコロナ禍による病院側との連携を進まない事で、バリューチェーン関係企業側も動機付けが弱い。今回具体的な医療用ベッドでのライフサイクル実証を証拠として進められれば、流れは大きく変わると思われる。

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・本プロジェクトがコロナ禍対応で多忙な病院を対象に行う事であるため、感染の波の収まりを見極めたうえで全体資産の中でターゲットを限定した、より病院側の負担をなくす方法でのスタートへの変更を計画し進めている、

## ③ 広報 (※任意)

### 1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

- ・一般社団法人 SINKa 様：九州休眠預金実践経営戦略会議での ZOOM でのプレゼン  
⇒ 2022年8月9日(火) 16時からプレゼン：30分程度、質疑：30分
- ・くるめソーシャルビジネスセミナー参加での久留米大学との連携提案  
⇒ 2022年9月24日(土) 15時から1時間

### 2.広報制作物等

- ・休眠預金助成金事業採択を名刺に明示(ロゴの記入)して、営業及び提案活動に利用

### 3.報告書等(コレクティブインパクト)

- ・筑邦銀行：DX推進部への金融機関の新ソリューションとしての連携提案及び既顧客への紹介のお願い  
⇒ 2022年8月8日(月) 1時間程度
- ・NTT西日本：九州支店長とビジネスソリューションズ：グループ長への情報共有プラットフォームを介したアグリゲーションサービスの検討を提案  
⇒2022年9月21日(水) 1時間

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	システム構築における進捗管理	日下部 清	日下部中小企業診断士事務所
外部	経理面のチェック、定期監査	別府 伸一	税理士法人 福岡中央会計

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
資産処理の標準化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に合わせて引合いのタイミングで検討される資産の標準処理の提案を行う。</li> <li>・処理業務の手順の標準化と見直しによる品質と安全性の担保</li> </ul>	福岡県内特に北九州地区より順に36施設での採用を目指す。	2024年3月末までに処理手順を本プロジェクト側で仕組み化し、地域内で適正な標準処理をシェアし契約が順調に伸びる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資産処理時には、低予算化と廃棄マニフェストの発行しか関心がなかったが、処理後の報告書等で処理内容が確認できて安心感を持って頂けた。</li> <li>・未だにコスト面だけでの処理選択が8割強であることが実態で、休眠預金助成金による標準化への説明も動機付けの要素までには至っていない。</li> </ul>

<p>資産処理データの見える化</p>	<p>紙運用をシステムへ導入する為のデータ化と移行による業務効率化とガバナンス強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 処理関係書類の紙運用を DB化、フォーマット化しデジタル運用する</li> <li>・ 処理業務上の適正報告と創出価値の見える化と共有化</li> </ul>	<p>2023 年 3 月末までに今までの処理実績報告を例に処理フローの電子運用のシステム化を図る。</p> <p>半自動的に処理報告が進みシステムとして確認され導入が進む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移転後処理実績での処理報告の紙運用部分を、システムに取り込む作業は進めており、デジタル化のステップは提案可能状態。</li> <li>・ 資産管理面が病院側でも、部門毎の考えで資産登録すらされていないものが多い。ライフサイクルどころか院内管理面での意識付けが必要である。</li> <li>・ コロナ禍後の政府による医療施設管理のガバナンス強化策が今後進むことに合わせての提案が望まれる。医療機器バーコード義務化でのトレーサビリティ対策の一環としての提案等である。</li> </ul>
<p>残存価値の見える化</p>	<p>廃棄予定品から生まれる残存価値の創出と還元</p>	<p>処理段階で査定フローをシステム化し経済的な還元が行え、処理アウトプットの環境性と社会貢献上の評価を定量的にフィードバックする</p>	<p>2024 年 3 月末までに、廃棄処理時の価値の見える化の仕組みとして経済性、環境性、社会性(地域貢献)の 3 ポトムラインを定量的にフィードバックできるシステムを構築し、資産処理の標準運用となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金属価格の高騰によって、マテリアル価値への期待は出ている。</li> <li>・ コロナ対応が続く中では、手間の削減が大きなメリットと感じており、経済性(金属価値還元と業務効率化)以外は関心が薄い。</li> <li>・ 医療業界では、SDGs 等の提案は動機付けに成りづらい様子である。</li> <li>・ 政府が進める HCX(ヘルスケア・トランスフォーメーション)は患者情報のライフサイクル管理であるが、その点に合わせた検査情報を扱う医療機器の管理を同じ DX 推進として進めたい。</li> </ul>

<p>地域及び関係者との連携と共生</p>	<p>資産処理フローの中で関係する各関係者間の協働作業による相互メリットの創出</p>	<p>関係者が処理フローにおける役割を決め、相互にメリットが見出せる情報共有の為に仕組みを体制化し継続運用を図る。</p>	<p>2023年3月末までに、資産処理データのシステム運用を可能にして、関係者が連携した標準処理基準の要件ヲシステム内に構築する。 2024年3月末までに、情報共有システムを介した相互の協働による医療機器資産地域循環圏のモデルが構築する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の状況で、地域全体的な仕組みを進めるには障害が多い。</li> <li>・今回はシステム化も同時に進める内容なので、製品と地域を限定し、取組みの概念実証と実験実証を進めてシステム化を図る。</li> <li>・環境と社会性の指標化を専門大学と組んだ形で、見える化する事で製造者の協力を得られる要素が強い。</li> </ul>
-----------------------	---	---	--	---



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>※コロナ禍による実施地域と内容等が変更しましたので、今年度内に改めて実施したいと考えます。</p>		



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度に、コロナ禍によって医療施設へのコンタクトが全く取れず計画変更を余儀なくされました。</li> <li>・医療系資産処理の全体的な処理標準化や仕組みづくりの方向から、スモールスタートによる製品限定での仕組み化を行う事により、プロジェクトを早くスタートさせられる可能性を選択しました。</li> <li>・医療系資産処理は、製品による若干の差異はありますが処理の流れや管理面は同じなので、まず限定した製品(医療用ベッド)でのバリューチェーン連携による推奨処理フローを完成させ、システムに載せる考えで進めます。</li> <li>・限定した製品ではありますが仕組みが出来れば、他製品も同様の仕組みを創る要望が出てきますので、期間は延びますが確実に進められると思われれます。</li> </ul>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	※2022 年度後期中に事業変更内容を実施し報告を行います。		
実施をとおした活動の改善、知見の共有			
組織基盤強化・環境整備			

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・当初のプロジェクト実施地域と内容が、コロナ禍と地域豪雨災害対策等で展開が進まず見直しを行う事になった。
- ・他地域での処理請負実績や処理報告等を利用して、情報共有のシステム構築を主に進める事にして、紙運用のデジタル運用化の構築を進めている。
- ・弊社の経験や知識だけで進めるにはリスクが伴うので、大きな地域や組織で進めるのではなく、スモールスタートで限定した製品や地域による、展開と仕組み創りでのアウトカム評価の実施を図る事にする。
- ・弊社がパラマウントベッド社の医療用ベッド処理を主にやっている関係で、メーカー側が進める循環型推進の取組みであるクローズ・ドリサイクルの地域展開への提案と、北九州市立大学の協力による業務フローの指標化とフィードバックを進める予定にしている。

## ③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・初年度が終わった時点で、地域展開が諸事情で進まなかった所で、システム会社との打合せの中でスモールスタートと概念実証(PoC)を行う事で、まずスタートさせて徐々に作り上げるという発想に気付かされた。
- ・限定した取り組みでスタートさせることで、関係者への参加協力の依頼も相手側が重く感じずに進められる状況である。
- ・休眠助成金活用事業採択をWEBで知ったり紹介等で、プロジェクト内容をプレゼンする機会が多くなった。  
この事で、コレクティブインパクトとしての連携やプロジェクト協力などの話が出て来ている。



## ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている





事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトの内容が、国の政策で進めるような部分(リサイクル関係法規制)がある事で、ローカルの一企業が提案する事への不安感があるように感じられた。</li> <li>・コロナや災害等の事情はあったにしても、関係者への協力をお願いする戦略面で弱かったと感じている。</li> <li>・事務局の方々の紹介で、金融機関や大手企業及び行政等への提案の機会が多く持てたことは、今後の展開に大きなプラスとなって出てくると思われる。</li> <li>・ソフトウェアやシステム構築の際に用いられる概念実証(PoC)の考えを導入する事でスタートが早めに行えることに成りそうである。</li> <li>・政府が進めるグリーン成長戦略やSDGs等でも取り組みや成果の見える化をどう担保するかと言う事が議論されている中で、行動や業務を指標化する事が今回北九州市立大学の提案で実現できそうである。</li> <li>・医療業界における標準化の提案と仕組み化として、限定ではあるがインパクトを残せると思われる。</li> </ul>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。(次項に続く)